

こころだより

特集

ご存知ですか？ 認知症疾患医療センター



山口少年鑑別所長から感謝状を受賞！！
臨床心理センター及び加来副院長は、山口少年鑑別所の業務に協力し、被収容少年の心身の鑑別に多大な貢献をしたとして、山口少年鑑別所長から感謝状を受賞しました。

- * お薬手帳の活用について
- * 高次脳機能障害リハビリテーション講習会のお知らせ
- * こころNEWS
- * 診療のご案内



編集：広報委員会
発行：山口県立こころの医療センター
山口県宇部市東岐波4004-2
TEL：0836-58-2370（代表）

特集！

ご存知ですか？

認知症疾患医療センター

専門相談員が物忘れや受診についてのご相談に対応します。

Q

どんな相談が寄せられますか？

ご本人からは

- ・よくものをなくす、置き忘れる。
- ・人の名前がなかなか思い出せない。
- ・家族からばけたんじゃないかと言われ気になった。

A

ご家族からは

- ・これまで好きだったことをやらなくなった。
- ・料理の味付けが変になった。
- ・ちょっとしたことに怒りっぽくなった。



Q

センターへの相談件数と物忘れ外来の受診者数は？

A

センターへの相談件数は、
年間396件で、
物忘れ外来新規受診者は、
年間149名です。
(平成25年度)



受診時に気をつけるポイントは？

Q

A

記憶力の低下を心配して受診される場合がほとんどです。しかし、本人にはあまり自覚のないことも多く、受診させるのが難しいと言った相談もよくあります。



受診させたい家族が、本人へ何の説明もなしに病院につれていくとかえって本人の精神状態が不安定になる事もあります。

本人が物忘れや前より出来なくなったことがあると自覚していたり、気にしている様子があれば、「物忘れが気になるから一度診てもらおう」と伝えて受診された方がよいと思います。

また、自覚がない場合には「頭の健康診断に试试看よう」と勧めてみることや、まずはかかりつけ医へ受診して医師から専門医療機関を勧めてもらうことが、有効な方法かと思ひます。

本人や家族の相談以外にも、医療機関や地域包括支援センター、ケアマネージャーからの受診相談もあります。

専用電話 0836-58-5950

に電話していただくと、相談員が相談を随時伺います。(月～金 8:30～17:15まで)
面談についても同じ時間に対応します。
診察を希望される方は受診予約が必要です。まずはご相談の電話をおかけ下さい。予約日時については外来と調整して後日連絡します。

研修会のお知らせ

毎年、認知症疾患医療センター研修会を実施しております。
今年度は平成27年2月15日(日)に開催します。
場所は山口県総合保健会館です。

お薬手帳の活用について

薬（くすり）は、ひらがなで左から読むと文字通り“くすり”ですが、右から読むと“りすく”と読めます。この言葉に象徴されるように、薬は良い面と悪い面両方を持っています。

患者さまと、お薬の話をしていると、お薬の副作用、飲み合わせ（お薬とお薬、お薬と食べ物）が心配事の中心となっています。まずは、きちんとお薬を服用することが大切になりますが、テレビ、新聞等で特にお薬の悪い面である副作用、飲み合わせの事が取り上げられるからではないかと思われます。

これらの、お薬の副作用、飲み合わせ、また重複を防ぎお薬を有効に安全に使用するための手段として、各薬局ではお薬手帳というものを配布しています。これは、一人一冊使用して、どの病院にかかっても、また他の薬局に行かれてもこの一冊の手帳を見せることによって、自分がどんな薬を現在飲んでいるかということがわかるように、薬の履歴を作っていくものです。また自分自身でお薬の内容を把握することにより治療に参加するという意識が生まれ、ひいてはお薬を

正しく使用することにつながることも期待しています。当病院薬剤部でも、お薬をもらえる際に、今回もらったお薬の内容が書かれたシールをおつけしています。このシールをお薬手帳にはり活用してもらっています。

このお薬手帳を上手に活用するには、他の病院にかかれた場合または他の科にかかれた場合、薬局でお薬をもらえる場合も見せていただくということが大切になります。これを通じて、お薬のチェックができます。また、何件もの薬局でそれぞれにお薬手帳をもらわれている場合は、この薬局に行く時はこの手帳、あの薬局に行く時はあの手帳というふうにせず、全て見せて下さい。病院・診療所に行ってみせる場合も同様です。

また、平成23年3月11日の東日本大震災で、津波によって何もかもが流されたときに、患者さまがお薬手帳を持っていれば何を服用しているかわかり、大変役に立ったという話も聞きました。

このお薬手帳を介して、患者さまとお薬についていろいろ話をし、少しでも患者さまの不安が解消され、お薬が有効に安全に使用されるようになればと思います。

はくの はるまさ
薬剤部副部長 白野 陽正

講習会のお知らせ

< 一般社団法人日本損害保険協会助成事業 > 平成26年度山口県高次脳機能障害リハビリテーション講習会

『交通事故や脳卒中で脳が傷ついたら・・・』
～もっと知りたい高次脳機能障害～

「高次脳機能障害の支援
～医療から地域生活に
つなぐ～」

講師：阿部 順子 氏
岐阜医療科学大学
保健科学部看護学科 教授



「突然、妻が倒れたら
～地域の絆に
ゆだねて生きる～」

講師：松本 方哉 氏
フジテレビ解説委員・キャスター
「突然、妻が倒れたら」著者



と き 平成26年10月26日（日）
10:00～16:00
ところ 山口県総合保健会館（多目的ホール）
参加費無料

お申込み・お問い合わせ先 【メ切：10月10日（金）】
地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター
高次脳機能障害支援センター 担当：川上・倉田
TEL：0836-58-1218

山口県立こころの医療センターのホームページからも様式をダウンロードできます。

<http://www.y-kokoro.jp/>

こころNEWS

白石看護部副部長『平成26年度日本精神科看護協会 優良会員表彰』を受賞！！

白石看護部副部長が、（一社）日本精神科看護協会から優良会員表彰を受賞しました。この表彰は永年にわたり協会活動に従事し、精神保健福祉の向上に顕著な功績があった優良看護職員に贈られるものです。



第61回こころの医療センター夏祭り開催報告

H26.7.31（木）に、第61回こころの医療センター夏祭りが開催されました。

夏祭り恒例の盆踊りや模擬店をはじめ、今年はボランティア学生さんによるダンスもあり、夏祭りを大いに盛り上げてくれました。

地域の皆様や患者さん、ご家族など多くの方々と楽しい時間を共有することができ、とても思い出深い一日となりました。



診療のご案内

外来診療担当医						
初診			再診			
月	（物忘れ、一般） 兼行 浩史	（一般） 角田 武久	磯村 信治	兼行 浩史	藤田 実	宮野 康寛
火	（児童・思春期、一般） 村田 由紀		三好 俊彦	吉田奈緒美	大賀 由紀	青島 真由
水	（児童・思春期） 加来 洋一	（高次脳） 兼行 浩史	村田 由紀	兼行 浩史	新造 竜也	青島 真由
木	（アルコール依存、一般） 藤田 実	（一般） 新造 竜也	兼行 浩史	角田 武久	宮野 康寛	
金	（物忘れ、一般） 宮野 康寛	（児童・思春期） 青島 真由	藤田 実	加来 洋一	吉田奈緒美	

初診・再診とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。

外来直通電話：0836-58-2327

交通のご案内



お車 / 山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分
電車 / JR宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分
バス / 宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩約10分

地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波 4004-2
TEL：0836-58-2370（代表）
：0836-58-2327（外来直通）
FAX：0836-58-6503



こころの医療センター

検索

<http://www.y-kokoro.jp/>